

地方自治体および大学教育におけるSDGsの実装のあり方に関する研究



地域共創学部
地域づくり学科
教授
垣迫 裕俊

研究シーズの紹介

SDGsは、環境、社会、経済の三側面から諸課題に統合的に取り組もうとする国際「目標」です。また、地方創生に取り組む自治体にとっては地域課題を再認識・再発見・再定義（ローカライズ）し、課題解決に向き合うさまざまなセクターの協力関係を構築するプラットフォーム・ビルダーの役割を果たすための有効な「手段」でもあります。

本研究は、国内自治体におけるSDGsの取組みの実状調

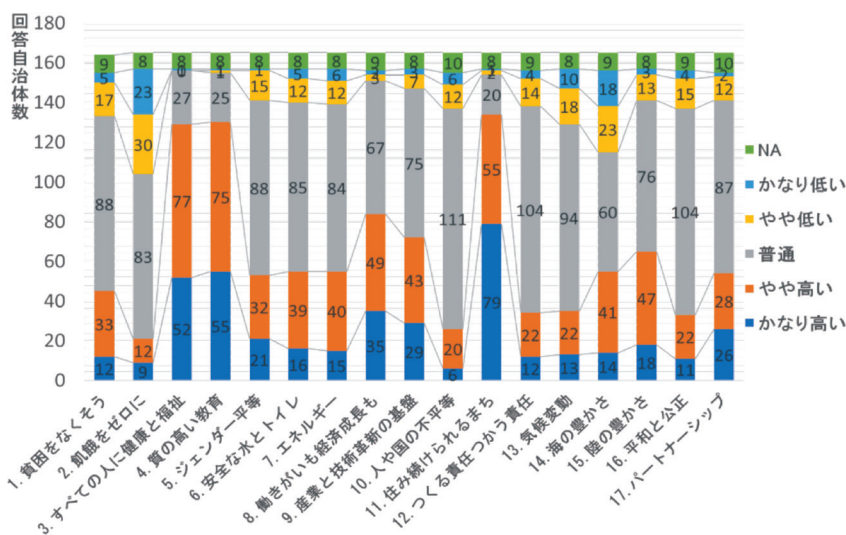
査を通してSDGsの政策としての主流化の状況を明らかにし、今後の自治体総合計画や各種行政計画への実装のあり方、さらには政策展開の方向性を示そうとするものです。

また大学におけるSDGs教育について、学生の継続的な行動変容をもたらすためにはどのようなアプローチによる体系的な学びが有効かについて、さまざまな実践を通して明らかにしようとするものです。



自治体・大学におけるSDGsの実装のあり方

- 中小規模自治体におけるSDGsの取組みへの支援が可能です。
- 大学教育におけるSDGsの学びのあり方を示します。



(令和元年度九州・沖縄地区アンケート調査：自治体における政策優先度)



(学びのカタチ)

期待される活用シーン

● 多くの地方自治体において、SDGsへの関心が高まっているが、中小規模自治体においては具体的な取り組みが進んでいない。



中小規模自治体におけるSDGsの取組みへの支援が可能です。



(先進事例)



北九州市魚町商店街

● 様々な大学で、学生のSDGsへの取り組みが行われているが、どのような体系的な学びが効果的か、試行錯誤の状況。



大学教育におけるSDGsの学びのあり方を示します。



北九州市エコタウンセンター

その他の研究テーマ

- 自治体における循環型社会形成政策に関する研究
- 自治体における福祉政策に関する研究